

令和2年度 学校評価

クラーク記念国際高等学校

1 重点目標

- (1) 基礎学力の確実な定着を図り、生徒の学習意欲を育む。
- (2) 生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す。
- (3) 生徒一人ひとりの気持ちに寄り添う決め細やかな生活指導を目指す。
- (4) 関係法令やガイドラインについて、連携施設との共通理解を進める。

2 自己評価

評価項目	自己評価
学習指導	<p>○義務教育範囲の学び直しについて、週5日登校する1年生の多くが年度末時点で中学校範囲の学び直しを終えることができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、昨年度よりも学び直し完了率が低下したが、英語は79.2%、数学は82.8%の生徒が学び直しを終えた。また、前年度に引き続き入学前教材「First Step」と「基礎学力オールチェック」教材を連動させたこと及び单元ごとの解説動画をWEBで視聴できるようにした学習環境の整備が、新型コロナウイルス感染症対策下においても一定以上の学び直しが実施できた要因であったと考える。</p> <p>○高校の基礎学力養成について、生徒の苦手克服と学習進度の確保に取り組んだ。</p> <p>・今年度の新たな取り組みとして、年2回の総合学力テスト（英語・数学・国語）を実施した。義務教育範囲から難関大学受験レベルまでの5段階の難易度設定とし、基礎学力の養成だけでなく、幅広い学力層の生徒への指導体制を強化した。</p> <p>テスト実施後には、学力テストの解説動画を活用した復習だけでなく、WEB教材に紐付けした帳票を生徒に返却し、生徒が長期休業を利用して学び直しを行い、個々の苦手箇所の克服ができるように努めた。</p> <p>○進学に向けた学力養成について、英語力向上に向けた取り組みを全国で実施し、英検合格者数の向上を図ることができた。</p> <p>・総合学力テストを活用した学力上位層への指導に加え、朝学習を活用した英単語学習や英検級別のオンライン放課後補講等を実施した。</p> <p>英検準1級47名、英検1級8名の合格者を含め、全体的な英語力向上の取り組みが一定の成果に繋がったと考える。</p>
学習指導における改善方策	<p>◇「高校生のための学びの基礎診断（英・数・国）」導入の経緯に鑑み、基礎学力の定着を確実に挙る。</p> <p>◇WEB教材を有効活用するため、教職員一人ひとりの意識改革を促す取組を進める。</p>

評価項目	自己評価
進路指導	<p>○3年次生の進路満足度は、微増で安定傾向が伺えた。</p> <p>週5日登校する3年生の「進路先満足度」及び「進路指導満足度」を調査した結果、「満足」の割合がそれぞれ 86.8%（昨年85%）、80%（昨年80%）となった。</p> <p>同様に、週に数日登校するコース生の調査結果も「進路先満足度」は88.6%（昨年度85%）、「進路指導満足度」84.4%（昨年度80%）となり、週5日コースよりも上昇した。</p> <p>○コロナ禍で全体での集合研修等の実施が困難であったが、オンライン勉強会の開催や、代表者が合同で作成した「進路指導マニュアル」の活用促進などの取り組みを実施した。</p> <p>このことで、3年間にわたった進路指導内容の共通理解や経験の浅い教員に対する助けになり、学校全体の進路指導力充実に寄与した。</p>
進路指導における改善方策	<p>◇オンラインを使った進路指導研修を実施し、経験の多少に関わらず、入試面接指導のポイントや多様な総合型選抜に関する対応ができるように、指導方法や進学に関する情報共有を強化する。</p> <p>◇大学進学率をさらに向上させるため、生徒から回収した受験報告書を全国で共有し、総合型選抜や推薦入試での面接練習の質を上げる。</p>
生活指導	<p>○出席率を高める取り組み（欠席・遅刻率の減少）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲をもって登校できる状況を生徒意識調査アンケートで調査し、よりよい学校環境の改善に取り組んだ。 ・また同時に保護者の意識調査アンケートも実施し、保護者のニーズや思いもくみ取り、生徒・保護者、両方のモチベーションを高めるよう努めた。 <p>○各地区の生徒指導状況を把握できる生徒指導プロジェクトチームの発足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月一度の定例会の実施 <p>○退学率を軽減する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の気持ちに寄り添うきめ細やかな生徒対応を目指すため地区毎の課題やニーズを捉えた研修をWEB上で実施するなど、教職員の力量を高めるようにした。（全5回） ・退学を考える生徒の支援をキャンパス職員だけで対応するのではなく、生徒支援対策委員会が各キャンパスの教職員をサポートするようにした。公立高校で校長職の経験がある教員や学校心理士の資格をもつ教員で構成し、生徒の具体的な支援方法のアドバイスや直接教職員をサポートすることで退学者の軽減を目指した。（令和2年度全国平均退学率 2%） ・本年度もいじめアンケートを2回実施し、いじめの芽を早期に摘み取り、いじめの解消に努めた。

評価項目	自己評価
生活指導における改善策	<p>◇生徒支援対策委員会の更なる活動範囲の拡大</p> <p>◇生徒対応で困っている各キャンパスの相談を早期に吸い上げる制度の構築</p>
組織運営	<p>○教職員研修</p> <p>コロナ禍で集合研修等の実施が困難であったが、オンラインによる教職員研修を実施した。</p> <p>危機管理、授業力アップ及び学習心理支援カウンセラーの資格取得などを年間計画に沿って実施した。加えて、入職3年目研修を実施し、若手教職員が抱えている課題や問題の解決に繋げた。</p> <p>○連携校との連絡会議について</p> <p>例年、全国4会場（首都圏、中部東海、近畿・中四国、九州）で連携校との研修及び情報交換を実施しているが、コロナ禍で集合での開催が困難なため個別にオンラインにより実施し、「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」の理解を深めるとともに課題及び改善策について、協議を行った。</p>
組織運営における改善策	<p>◇「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」に基づき、連携施設が自己点検に取り組めるシステム（自己点検チェック表）を確立する。</p> <p>◇連携施設における課題解決に向けた支援を強化する。</p> <p>◇各キャンパスにおけるOJTの充実を目指し、評価を実施する。</p> <p>◇授業力研修をアクティブラーニングやICT教育及びコーチングを加味した内容に改めていく。</p>